

# あさひ燦々



理念 地域の人々と勤労者の方々に信頼される医療を提供します

○基本方針 ① 患者さんの権利を尊重して、患者さん中心の医療を実践します。 ② 多職種と幅広く連携し、地域医療の充実に努めます。 ③ 地域の中核病院として急性期医療・救急医療の充実に努めます。 ④ 慈愛の心に満ちた医療人を育成します。 ⑤ 一般医療を基盤とした勤労者医療を積極的に実践します。 ⑥ 働き甲斐のある職場づくりをし、健全な病院運営を行います。

## 特集

### 新型コロナウイルス病棟で頑張る看護師たち



外来看護師長 山本 愛子  
(執筆当時 3 東病棟看護師長)

2020年1月16日、日本で初めての新型コロナウイルス患者が報告され、2月1日に新型コロナウイルスは指定感染症に指定されました。当院では、呼吸器内科病棟にある陰圧個室2床、(普段は、結核や麻疹など空気を介して感染する病気の時に使用する部屋)で新型コロナウイルス患者を受け入れる事に決まりました。そのため病棟の看護師は2020年2月上旬より、防護具等の確保や、着脱の練習を始めました。しかし、この頃は、まだ尾張旭市にも陽性者がおらず、ダイヤモンドプリンセス号のニュースを「大変だなあ」と他人事のように見ていました。

その後、愛知県でも新型コロナウイルスが流行り始め、当院でも3月4日に初めて新型コロナウイルス患者を受け入れることになりました。この日から、病棟看護師と新型コロナウイルスとの奮闘が始まりました。感染防止の為、防護具を着て作業をすると、防護

具の中に汗が貯まり、手袋を脱いだ手はふやけてしまうほどでした。また、点滴をするために血管を探しているうちにフェイスシールドが曇り、血管どころか目の前が見えなくなってしまうこともありました。未知の病気であったため、患者対応も手探りでひとつひとつ決めていきました。

その後徐々に新型コロナウイルスの事がわかり始め、自分たちも経験を重ねる事で、病状・状況に応じた対応がとれるようになりました。入院する方には、入院中の流れがわかるように表を作成しお渡ししました。ご高齢の方が家族と会話ができるように、PHSやiPadでのテレビ電話の介助なども行いました。

新型コロナウイルスで入院された患者と関わる中で、陽性が判明してから初めて優しい言葉をかけられたと喜んだ方、会社で初めての陽性患者になったため会社に戻れるのか不安を訴える

方、ニュースを見て自分もコロナで死ぬのかなと話される方、家族に病気を移してしまい悔やんでいる方など、病気以外のことでつらい思いをされる方が多いため、そのような思いを傾聴し寄り添えるように病棟看護師は関わってきました。

3月から第4波に備え、感染症専用病

棟となりました。また、当院職員に医療従事者ワクチン接種が始まりました。新型コロナウイルスが収束するまでは入院される方が少しでも快適に入院生活を過ごせるよう入院環境を整えて行きたいと思います。今後も新型コロナウイルスと奮闘する私たちに温かく見守っていただけると幸いです。



写真 1：感染区域で防護具を着て働く看護師

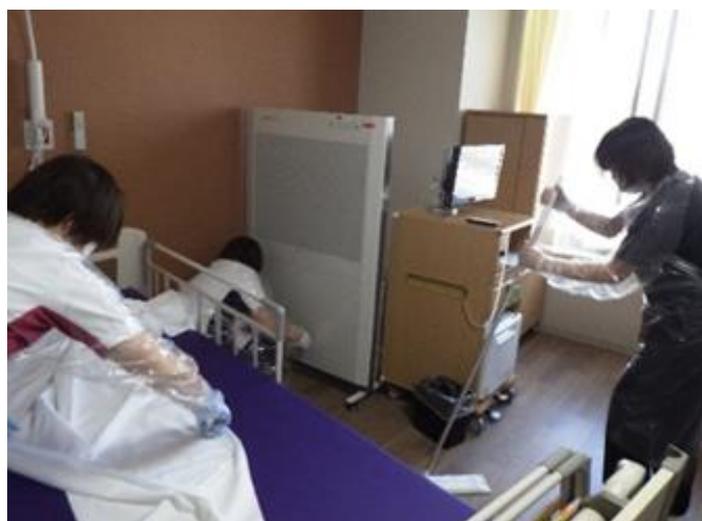


写真 2：掃除も看護師が実施

## 特 集



### 日帰り入院大腸内視鏡検査について



消化器内科主任部長 小笹 貴士

日本人の約3人に1人は「がん」で亡くなるといわれています。「大腸がん」は年々増加しており2017年の統計によると、罹患数（新たにかんと診断された人数）において男性では前立腺がん、胃がんにつき第3位、女性では乳癌につき第2位、全体では第1位です。大腸がん検診で陽性と判断された方や、腹痛、便秘異常等何らかの症状を認めた場合、精密検査のため大腸内視鏡検査（CS）を行

いますが、毎年非常に多くの患者さんが検査を受けることになります。

2019年12月に武漢を発端に拡大した新型コロナウイルス肺炎は瞬く間に全世界に広がり現在も感染を抑え込んでいません。当初は防護具不足や、未知のウイルスに対する対処方法に戸惑い、診療制限を行い、内視鏡検査もほぼできない状態が続きました。このような状況でも病気の進行は待ってくれません。現在は防護

具も整い、しっかりと感染対策も行っているため当初のような厳しい検査制限は行っておりませんが、引き続き感染対策は徹底していくことが必要です。

当院における大腸内視鏡検査は、検査当日朝に病院に来院してもらい1.5～2Lの腸管洗浄液を内視鏡室で飲んでもらっています。しかし、「密」を避けるため1日に6人までしか同時に内服できないのが現状です。これでは検査を行うまで1～2か月待たなければならないといったことも出てきてしまいます。そこでこの問題を解消するために「日帰り入院大腸内視鏡検査」を行うこととしました。具体的には検査当日朝9時30分ごろ来院してもらい、そのまま入院します。病棟で午前中に腸管洗浄液を内服し、便がきれいになったら、午後、内視鏡室で検査を行い簡単な検査結果説明を受け問題なければ退院、後日さらなる結果説明の必要があれば外来受診をしてもらう流れとなっています。

日帰り入院 CS のメリットは何といても「個室」で腸管洗浄液が内服できることです（個室の指定はできません）。また、内視鏡室で数人の患者さんと腸管洗浄液の内服をするのと違いトイレの取り合いもありません。結果、密を避け、落ち着いて検査前の処置を行うことができます。デメリットとしてはやはり外来検査とは違い入院のための費用が余分にかかってしまうことです。しかし、高齢者など医療費が1割負担の患者さんの場合はそれほどの増額にはならないと考えています。（下記の表を参照願います。また同日入院大腸内視鏡検査を行う際にはあらかじめ予約が必要です。詳しくは当院消化器内科へご相談ください。）

コロナ禍での病院受診や検査に不安があるかもしれませんが病気は待ってくれません。大腸の精密検査が必要となった際、個室で前処置可能な日帰り入院大腸内視鏡検査も検討してみたいはいかがでしょうか。

日帰り入院による大腸内視鏡検査(入院費用及び検査費用を加えた概算です)

総医療費		54330円		
日帰り	1割負担の場合(75歳以上の方)	5,430円	外来検査と比べ	3,810円 の増額
入院	2割負担の場合(70～74歳の方)	10,870円	外来検査と比べ	7,620円 の増額
検査	3割負担の場合(70歳未満の方)	16,300円	外来検査と比べ	11,430円 の増額

※特定の個室をご希望の場合を除き個室料金はかかりません。

※70歳以上の方でも、現役並みの所得者は3割負担となります。

※生体検査やポリープ切除を行った場合は追加して負担金が発生しますが、これは入院検査でも外来検査でも金額に変わりありません。



## 入退院支援センターの取り組み

患者サポートセンター看護師長 西 綾子

入退院支援センターは、患者さんが入院前から退院後まで安心して医療を受けられるためのサービス提供とその支援をすることを目的としています。令和2年度からは担当者を増員し、全ての入院に対して支援を行っています。外来・入院支援・病棟・退院調整と継続的に活動し、患者さんが安心して入院生活を送られる様に努めております。

入院が決定したとき、退院が決定したときの対応についてご紹介します。

### ★入院が決定したら★

入退院支援看護師は、患者さんの身体的・社会的・心理的状況を丁寧に伺います。

患者さんが不安なく入院生活を送っていただけるように、退院後を見据え、医療ソーシャルワーカー・看護師・薬剤師など多職種と入院前から

連携しています。

### ★退院が決定したら★

入院されてからは、早期から入退院支援看護師が関わり、継続して多職種と連携しています。

退院後の療養生活について、患者さんご家族の意思決定について支援します。ご自宅に帰る場合、退院後も医療処置（カテーテル管理・酸素吸入・注射など）が必要であれば、その処置がご自宅でも継続できるよう支援し、地域へつなぐ役割を担っています。

当院の訪問看護は平日営業時間帯のみ実施していますので、24時間訪問看護が必要な患者さんご家族には地域の訪問看護ステーションをご紹介します。

患者さんが退院後も不安なく過ごしていただけますよう、幅広い知識を持った看護師がサポートさせていただきます。



教えてドクターQ&A

【質問】

私の母についての相談です。年齢は78歳で一人暮らしをしています。5年位前から耳が遠くなり、会話では何度も聞き返したり、テレビのボリュームがすごく大きかったりしていました。本人はさほど不便を感じないようで、補聴器を勧めましたが嫌がってしまいました。最近ではわからなくても聞き返さずにハイハイとうなずいて、会話が成立しなくなっています。新型コロナで緊急事態宣言が出てからは、人と会うことが少なくなり一日中テレビを見ていて、表情もぼんやりした感じになってきました。このままだと認知症になったり、特殊詐欺にあうのではと心配しています。どうしたらよいのでしょうか？どうか先生教えてください。(52歳男性)



【回答】

ご相談にあるように、本人は平気だと思っけていても、家族や周囲の方々のほうが困っているというケースはよくあります。

難聴があると、人の会話が聞き取れず聞き返しが多くなってしまいます。何度も聞き返すことを遠慮したり、面倒になったりすると、とりあえず返事をして大事なことを分からないまま判断してしまっけて、後で問題になるおそれがあります。また、最近では難聴があると認知症やうつ病になりやすいともいわれています。

もし難聴でお困りのことがあるようでしたら、まずは原因を調べるために耳鼻咽喉科への受診をおすすめします。耳垢栓塞、中耳炎などが原因であれば処置、手術、投薬などの治療で聴力が改善する場合があります。加齢性難聴であると治療での改善が難しいので、中等度から高度難聴であれば補聴器を使うのがよいと思います。

社会生活において、聴力はとても大切です。補聴器を適切に使用するなど、難聴への対応が認知症の予防につながる可能性も示唆されていますので、難聴を放置せず、早めに対応することがとても重要だと思います。

耳鼻咽喉科部長 清水 崇博

## ～新規職員入職について～

令和3年4月1日より本年度の新規採用職員が入職しました。  
本年度は医師15名、看護師15名、薬剤師2名、事務職員2名の計34名の  
これから病院を支える貴重な正規職員が採用となりました。



### 【編集後記】

#### ～池江さんの快挙～

最近の良いニュースといえば、東京五輪代表選考会を兼ねた競泳の日本選手権で池江璃花子さんが4冠を達成し、リレー2種目で五輪出場が決まったことです。このニュースには本当に感動しました。池江さんは中学時代から日本新記録を更新し、高校3年生で迎えた2018年8月のアジア大会では6冠に輝き大会 MVPになるなど、東京五輪での活躍が期待された選手でした。しかし2019年2月に白血病と診断され、療養生活に入りました。闘病生活や競技復帰に向けてのトレーニングはテレビなどで報道されたのでご存じの方も多いかと思います。コロナのため東京五輪が1年延期される偶然もありましたが、この度の奇跡の復活となりました。大変な快挙で、同じ病気で苦しんでいる多くの患者さんに勇気を与えてくれたと思います。東京五輪は無観客開催になりそうですが、心から応援したいと思っております。

広報委員長 小川浩平